

診療科等のクリニカルインディケーター

脳神経外科

1. 一般的項目:

tPA治療患者数

▶ 項目の解説

急性期脳梗塞(脳塞栓)に対して、近年tPAの静注が有効な治療として承認されました。
一般的には、脳卒中を急性期に扱う救急病院で件数が高くなる指標ですが、当院においても救急部が整備され、今後適応患者が増加するものと思われます。
現在、発症後3時間以内の脳梗塞のみ適応が認められていますので、この数値は、脳卒中の急性期をいかに診療しているかを示す指標の1つとなります。

▶ 定義

年間の脳梗塞急性期に対してtPAを受けた患者数です。

コメント

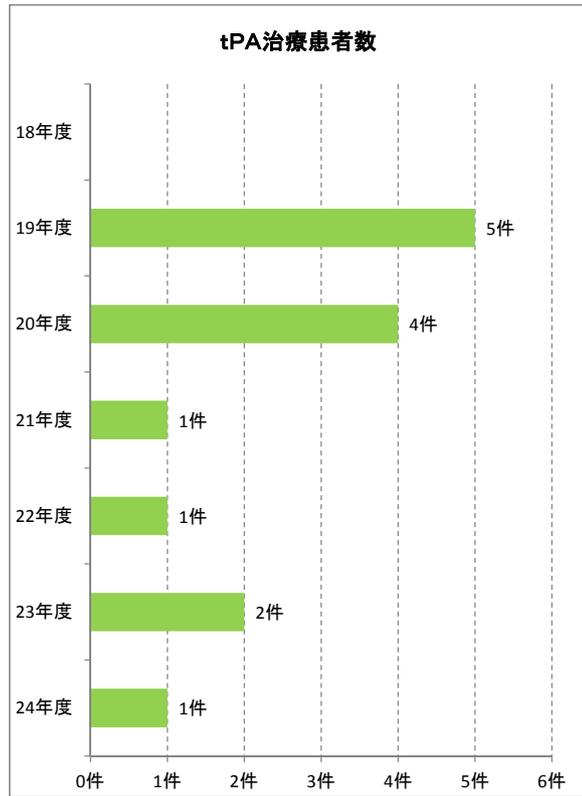
これまでは、年間件数の治療件数に留まっています。これには治療開始の適応が発症3時間以内であることがネックでした。
平成24年度より救命救急センターが設置され、救急患者数が増加しており、今後、3時間以内に搬入される患者の増加が見込まれています。

算式

延患者数

単位

件



2. 大学病院特有項目:

脳腫瘍の手術数

▶ 項目の解説

脳腫瘍は脳内に発生し、周囲脳組織に浸潤する性格をもつタイプと脳外の脳神経、下垂体、髄膜より発生し脳を圧排しながら発育するタイプの2つに分けられます。
前者は、手術のみでは治癒は得られず、放射線・化学療法を含めた集学的治療を必要とします。一方、後者では摘出術により治癒が得られる可能性があります、そのためには各種手術支援装置を用いてより安全に摘出する必要があります。
従って、脳腫瘍の手術は、十分な手術体制を整え、かつ適切な後療法を行える大学病院が中心とならざるを得ません。
この手術数は、脳神経外科においてスタッフと設備の充実を同時に評価しうる指標の1つです。

▶ 定義

年間の脳腫瘍に対する手術を受けた患者数です。

コメント

平成21年、22年においては、全国の脳神経外科を有する施設中40位前後の脳腫瘍手術数です(朝日新聞による)。
これは、年々増加傾向にあり、さらなる件数の増加、治療成績の向上に努めています。

算式

延患者数

単位

件

